



第42回読売書法展

役員作品 鑑賞ガイド

ごあいさつ

読売書法展は伝統と古典に基づいた書の継承と発展をめざして昭和五十九年（一九八四年）に始まりました。出品約一万四千点、東京展、関西展、九州展の三会場からのスタートでしたが、今回の第四十二回展には、約二万点が集まり、全国六会場（東京、関西、中部、四国、東北、九州の各展）で開催します。

読売書法会の発足以降、書壇を取り巻く環境は大きく変わりましたが、「本格的輝き」を標榜する読売書法展は方向性を見失わず着実に歩みを進め、今日では国内最大規模の公募展に成長しました。

本年は「書道」がユネスコ無形文化遺産へ登録される見込みで、日本の伝統文化である書道の魅力を国内外に向けて発信する新たな節目を迎えようとしています。また、第三十八回展から始まった高校生からの出品も年々増え、書文化を次代へつなぐ読売書法展の役割は、ますます重要になるものと考えています。

読売書法展に出品する書家は、古典を考証しながら新たな可能性を追求し、絶えず研鑽を重ねています。いまなお止むところを知らない旺盛な創作活動は、書法会の根幹を支えるだけでなく、現代書道芸術の発展に多大な影響を与えています。

本紙には、国内書壇の最高峰を形成する最高顧問、顧問、常任総務らの作者自身による制作意図を紹介しておりますので、ご鑑賞の際の手引きとしてご利用いただければ幸いです。

令和八年八月

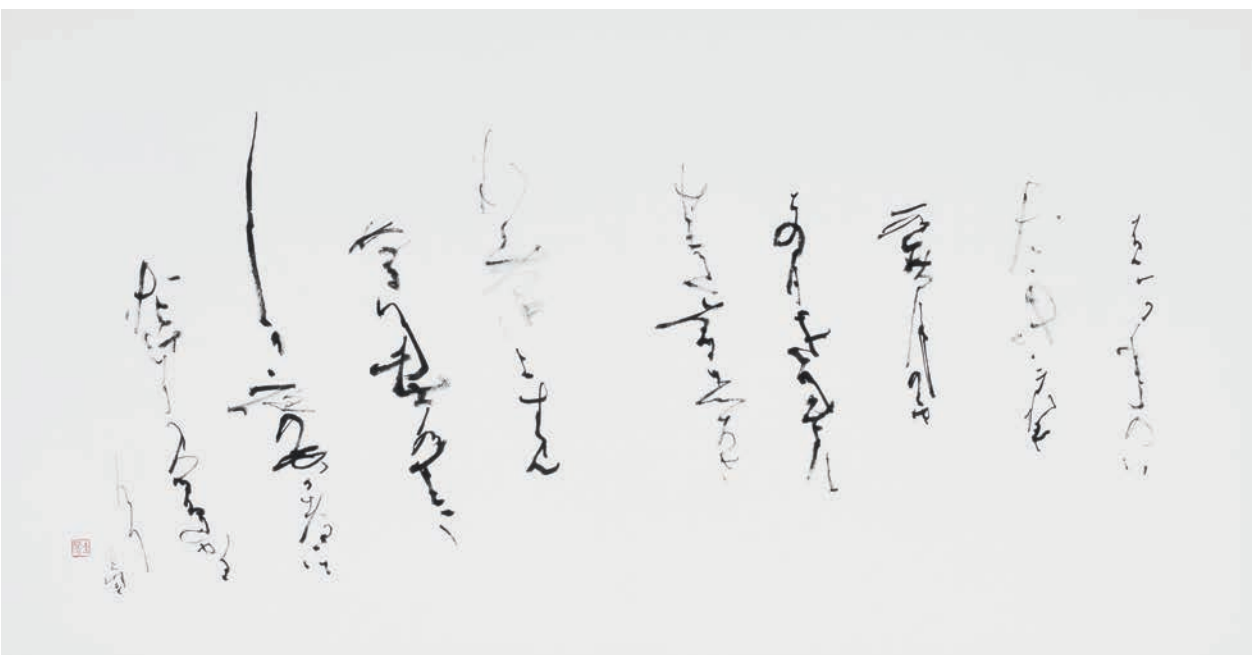
読売新聞社
読売書法会



最高顧問
井茂

圭洞

右…霊峰富士（森鷗外「舞扇」）
左…つとめ（二宮尊徳）



文字内の白さの妙 字間の長短 行の左右移行による行間の交響 書線の太細 墨量の多少による立体感 運筆の工夫による流動性等で要白（余白）の新鮮な書の創造の試みに挑戦したが？



最高顧問
黒田

賢一

右…暁雨（齋藤茂吉）
左…白蓮（水原秋櫻子）



多様な相反する要素を盛り込み、立体感を求め、自然体の中から醸し出す白が魅力あるものになるよう試みた。

可読性を重視する中で、単体と連綿体が心地よい流れのリズムを生み、生命力がみなぎる紙面となるように願った。





最高顧問

高木 聖雨

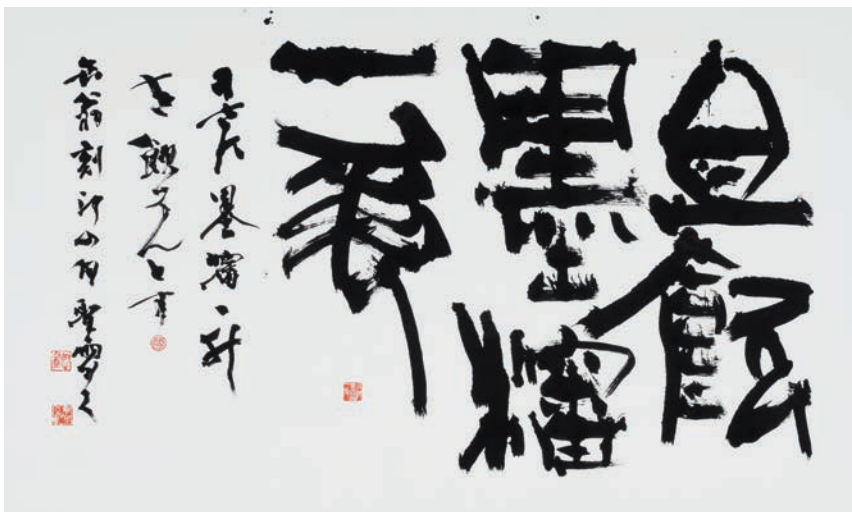
右：動天（書経）

左：呉昌碩刻印より



繁画と疎画の対比により、白が黒を制約する空間構成を志向した。白黒の拮抗が生む緊張を通して、書における造形性と生命感の表出を試みた。

呉昌碩の刻印に見える印文を力強く表し、傍らに調和体による書き下しを添えた。剛健な篆書と柔らかな調和体の対比により、作品に緊張感と調和を図った。



最高顧問

星 弘道

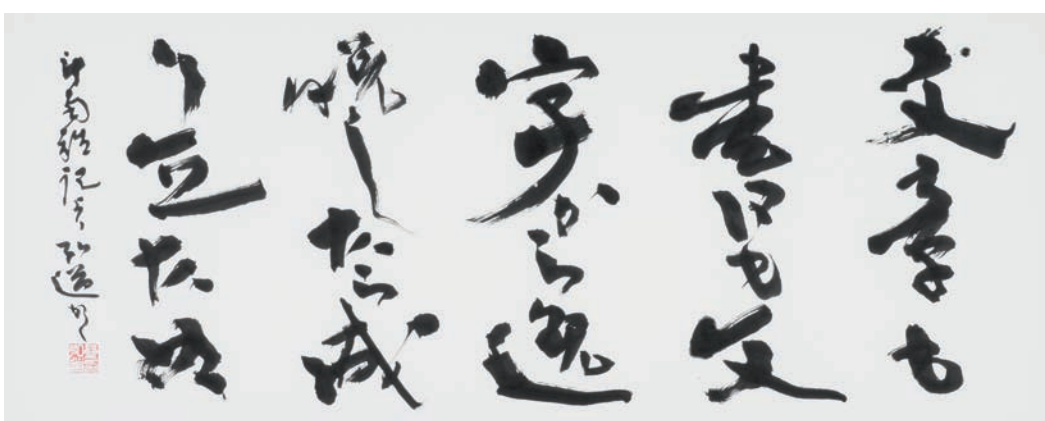
上：奮臂雲興（陸機「漢高祖功臣頌」）

下：斗南雜記（自詠）



雲のようにわき立つ勢と言う意味があり、書法も気合いが大切に勢いのある線と内面に魂を感じる作としたかった。

漢字は六書により、書体は、篆隸楷行草仮名がある。その中に無数の表現があるが文字でなければ書でない。

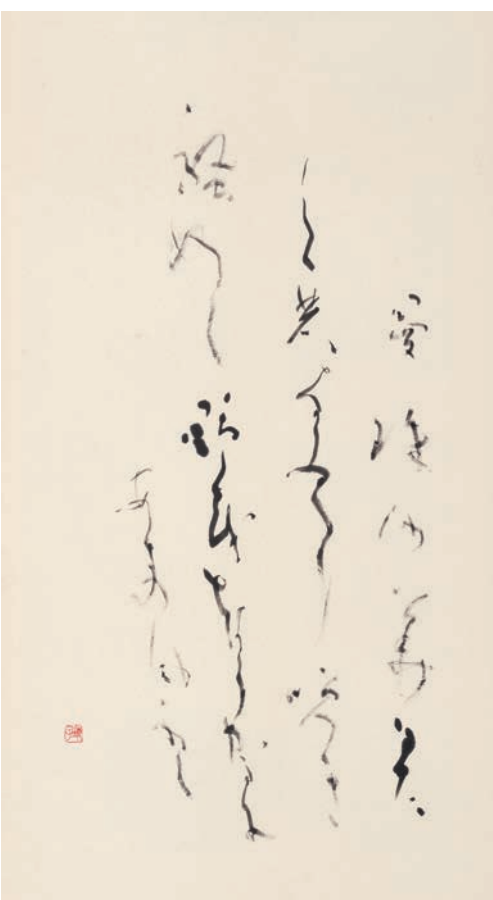


最高顧問

土橋 靖子

右：曼珠沙華（伊藤左千夫）

左：大きな文字（金子みすゞ「大きな文字」『金子みすゞ童謡全集』JULA出版より）



仏教の経典に由来するといわれる『曼珠沙華』という名前の響きに心惹かれました。野趣を大切にアンバランスを超えたバランスの美を願いました。

作為を抑え、言葉の意味や詩のもつリズムを大切に、穏やかな気持ちで筆を持ちました。



顧問 杭迫 柏樹

右：春華秋實（「顔氏家訓」）
左：萬象具徳（二宮尊徳）



書表現の上で、外面の形式美と、内面の充実が共にすぐれていることが大切だと…。躍っていた筆を思いきり沈めてみたが…。



二宮尊徳の「人には一人一人異なる良さがある」。書もこうありたいと思つて…。



顧問 新井 光風

上：年徳（禮記・禮運）
下：禮記・樂記（禮記・樂記）



変則的な強弱で無限に展開する怒濤の如きエネルギーと響きを求め、気宇壮大な空気感と命の躍動を探る。

一点一画、線の命と存在感を基盤に、氣韻の定着につとめた。人心が合い和す世界の平安を願つて書きました。

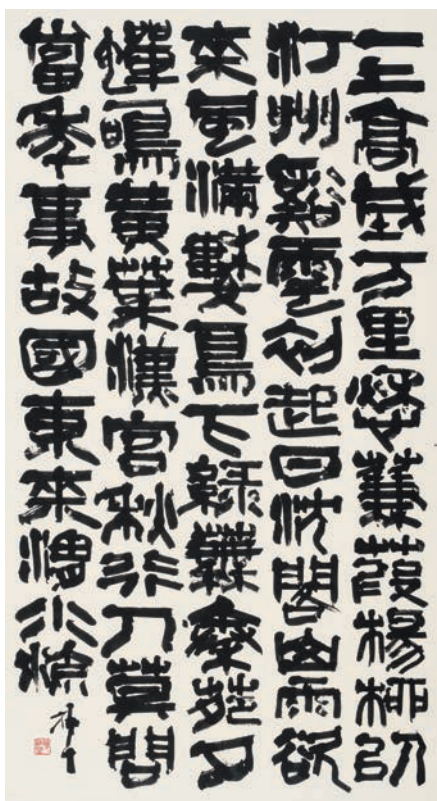


顧問 牛窪 梧十

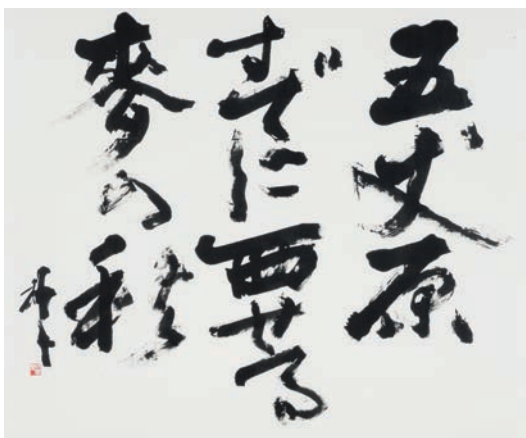
右：許渾詩（許渾「咸陽城東樓」）
左：五丈原（自詠）



今年は松浦友久氏の著を読みながら「懷古」をテーマとした詩を書くかと考えている。その第二作である。



丁亥の年に西安から麦積山・炳靈寺などを巡った。バスから五丈原という地名を見ての感慨がこの句となった。



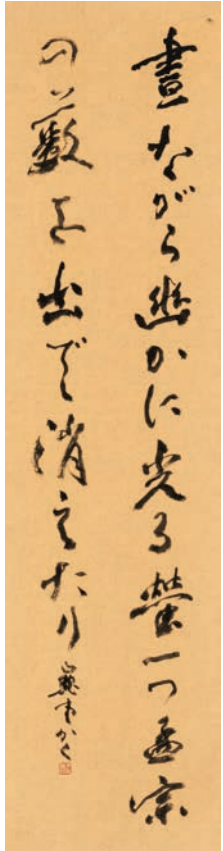
顧問 真神 巍堂

上：良寛詩（良寛）
下：螢（北原白秋）



私の作品制作で最も大切にしているのは“品格”です。奇を衒わず開放した自己が表せれば最高です。結果は如何。

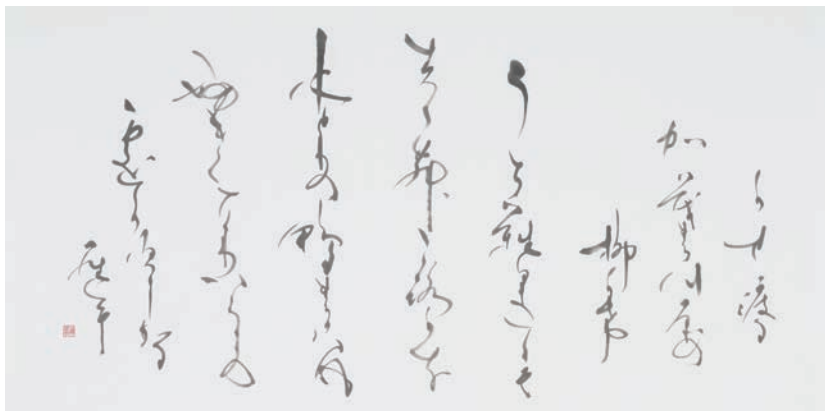
制約の多い調和体にはいつも苦勞します。結局漢字とかなのバランスのよい歌に頼っています。



常任総務 日比野 博鳳

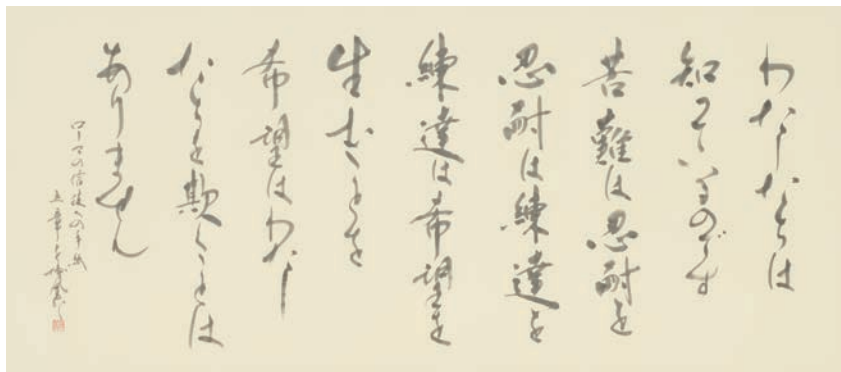


上：川風（香川景樹『桂園一枝』）
下：希望（「新約聖書」ローマの信徒への手紙第5章）



江戸時代後期の京都。新鮮な感覚で作歌した香川景樹。その新鮮さを考慮し、複雑にならぬよう清明に仕上げた。

どのような人生にも克服すべき試練はあるが、努力はいつの日にか報われることを、この語句は教えてくれる。



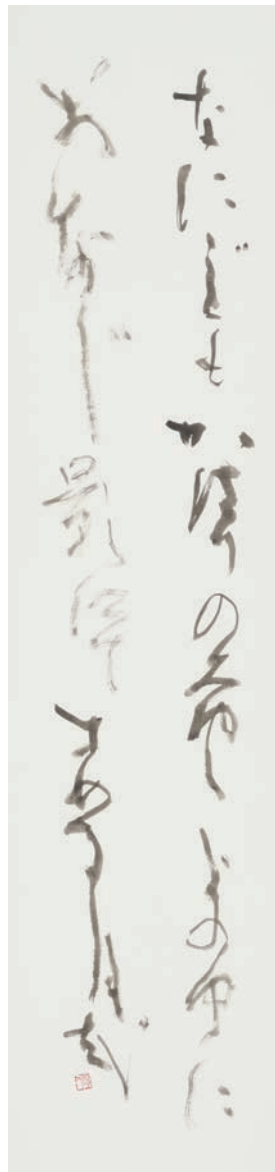
常任総務 高木 厚人



右：何事も（西行）
左：なにごと（西行）



かなと調和体同じ素材・同じ形式で作品を制作した。読みやすい調和体もかなになると全く景色が変わる。かなはそのことを感じてもらえる表現を目指した。



調和体は文字の大小・線の太細等で文字が目立たぬよう努めた。

常任総務 中村 伸夫



右：蘇東坡詩句（蘇東坡『蘇東坡詩集』）
左：杜甫詩句（杜甫『唐詩選』）



人生を小さな蟻にたとえた名句です。十字の組み合わせに工夫を凝らし、強い筆運びで、紙面を制圧するような気持ちで書きました。



杜甫の詩句の訓読です。漢字と仮名の自然な融合をめざしました。

第42回読売書法展（2026年） 会期・会場

〔東京展〕

《第1会場》 8月21日（金）～30日（日）※25日（火）休館

国立新美術館

《第2会場》 8月23日（日）～29日（土）

東京都美術館

〔関西展〕 9月9日（水）～13日（日）

《第1会場》 京都市京セラ美術館

《第2会場》 京都市勧業館「みやこめっせ」

〔中部展〕 9月15日（火）～20日（日）

《第1会場》 愛知県美術館ギャラリー

《第2会場》 ウィンクあいち

〔四国展〕 10月10日（土）～12日（月・祝）

《会場》 サンメッセ香川

〔東北展〕 10月21日（水）～25日（日）

《第1会場》 山形美術館

《第2会場》 山形県芸文美術館

〔九州展〕 12月11日（金）～13日（日）

《会場》 福岡国際センター

※今後の諸事情により、日程が変更または中止になることがあります。
読売書法会公式サイト（<https://yomiishohokai.com>）等で最新の情報を確認ください。

© 2026 読売新聞社 読売書法会

著作権に関して、お気づきの点があれば読売書法会事務局までお知らせください。